

(6) 2015年(平成27年) 12月3日(木曜日)

ある田舎の農村に、たくさんの人を雇つて生活を営む金持ちの農家があつた。ある日、その若息子が父親に言つた。「お父さん、あなた財産から私が受けるべき分を今下さい。都會の方で何か新しいことでもしてみたいですから」。そこで父は財産を分けてやつた。やがて青年は、たくさんの現金を持つて、ワクワクしながら色々とりどりのネオン輝く夜の町へのめり込んでいった。ディスコ、ヒップホップ、ビール、ワイン、酒、タバコ、着飾つた厚化粧の女の子たちが次々と青年に近づいて来る。最初のちは高級ホテルに寝泊まりしていたが、その後、やりはじめていたが、そのうちすっからかんになり、着いつた服もボロボロになり、物乞いを始める身になり下がつてしまつた。やつとのことで豚に餌をやる仕事が見つかつた。何日も食べ物らしい物を

食べたことがなかつたので、とうとう豚の餌に手を突つ込んだ。とうとう豚の餌に手を突つんだ。

「僕は今、ここで飢え死にしようとしている。父の所で息子の小さな頭が遠くの方かに鍵をかけずに、毎晩のように外に出て息子の帰りを待ちました。それ迄はいつも上の空でわびていた。そんなある日、息子の小さな頭が遠くの方からボソンと見え出すと、二人

は決心するやいなや故郷の方へ方向転換して、弱り果てた足で走り出した。父親は、家年は故郷の父親のことを思い出しました。

は決心するやいなや故郷の方へ方向転換して、弱り果てた足で走り出した。父親は、家年は故郷の父親のことを思い出しました。

礼拝メッセージは、キリストが一人の犯人と共に、十字架に掛けられた時の話であつた。それ迄はいつも上の空で

禮拝メッセージは、キリストが一人の犯人と共に、十字架に掛けられた時の話であつた。それ迄はいつも上の空で

南加キリスト教教会連合

岩田 春子

ても有り余るほどの食べ物がたくさんある。そうだ! 父の所へ帰つて、こう言おう、父親は、雇い人たちに大きくな祝宴を命じて言つた。「息子は死んでいたのに、生き帰り、いなくなつていてのを見つかったのだから」。(聖書ルカ伝15章 放蕩息子参照)

「父よ、私は天に対してもあなたに向かつても、罪を犯しました。もうあなたの息子は死んでいたのに、生き帰り、いなくなつていてのを見つかったのだから」。(聖書ルカ伝15章 放蕩息子参照)

「父よ、私は天に対してもあなたに向かつても、罪を犯しました。もうあなたの息子は死んでいたのに、生き帰り、いなくなつていてのを見つかったのだから」。(聖書ルカ伝15章 放蕩息子参照)

「父よ、私は天に対してもあなたに向かつても、罪を犯しました。もうあなたの息子は死んでいたのに、生き帰り、いなくなつていてのを見つかったのだから」。(聖書ルカ伝15章 放蕩息子参照)

「父よ、私は天に対してもあなたに向かつても、罪を犯しました。もうあなたの息子は死んでいたのに、生き帰り、いなくなつていてのを見つかったのだから」。(聖書ルカ伝15章 放蕩息子参照)

「父よ、かれらをお赦しください」。青年

同様にして下さい」。青年

私は十代の頃、東京の大森

それから神学、宗教、哲学、

文学、心理学等々をむさぼり

学び、いつの間にか聖書学院

で学んでいた。

神学校3年生の時、四国

愛媛県に派遣された。卒業

聴いていたし、2千年前

の出来事を信じるなんておか

しいと思っていた。何の罪も

ないキリストは人々のために

身代わりにされ、十字架上で

『父よ、彼らをお赦し下さ

い。彼らは何をしているのか

分からず』にいるのです』(聖

書ルカ23:34)。私はこの御

言葉にただならぬ衝撃を受け

た。果たして人間は殺害する

者のために祈れるのだろう

か。何はともあれキリスト教

とは一体何なつか追求するこ

とにした。礼拝後教会の方に

そのことを話すと、「何はと

ても駆け寄り抱きしめ合つて

泣き出した。

父親は、雇い人たちに大き

な祝宴を命じて言つた。「息

子は死んでいたのに、生き帰

り、いなくなつていてのを見

つかったのだから」。(聖書

イエスが彼に言われた)。「わたしは7たび迄とは

7たびを70倍にする

70倍に赦せ」との御言葉はわ

た。7たび迄とは、幾度赦さねばな

りませんか。7たび迄です

か」。イエスは彼に言われ

た場合、幾度赦さねばな

りませんか。7たび迄です